



SnapCenterサーバとプラグインの管理

SnapCenter software

NetApp
January 09, 2026

目次

SnapCenterサーバとプラグインの管理	1
ダッシュボードを表示	1
ダッシュボードの概要	1
ダッシュボードに情報を表示する方法	5
ダッシュボードからジョブのステータスレポートを要求する	5
ダッシュボードから保護ステータスのレポートを要求する	6
RBACの管理	6
ルールを変更します。	6
ユーザとグループの変更	7
ホストの管理	7
仮想マシン情報の更新	9
プラグインホストの変更	9
プラグインサービスの起動と再起動	10
ホストメンテナンスのスケジュールの一時停止	11
[Resources]ページでサポートされる処理	11
ポリシーの管理	12
ポリシーの変更	12
ポリシーの適用解除	13
ポリシーの削除	14
リソースグループの管理	14
リソースグループに対する処理の停止と再開	15
リソースグループの削除	15
バックアップの管理	15
バックアップの名前変更	16
バックアップの削除	16
保護の解除	17
クローンの削除	17
ジョブ、スケジュール、イベント、ログの監視	18
ジョブの監視	18
スケジュールの監視	19
イベントを監視する	20
ログの監視	20
SnapCenterからのジョブとログの削除	21
SnapCenterのレポート機能の概要	22
レポートへのアクセス	23
レポートのフィルタ	23
レポートのエクスポートまたは印刷	24
Eメール通知用のSMTPサーバの設定	24
レポートをEメールで送信するオプションの設定	25

SnapCenterサーバリポジトリの管理	25
SnapCenter リポジトリを保護するための前提条件	25
SnapCenterリポジトリのバックアップ	26
SnapCenterリポジトリのバックアップの表示	26
SnapCenterデータベースリポジトリのリストア	26
SnapCenterリポジトリを移行する	27
SnapCenterリポジトリのパスワードをリセットする	28
信頼されないドメインのリソースを管理します。	28
信頼されていないドメインの変更	29
信頼されていないActive Directoryドメインの登録解除	29
ストレージシステムの管理	30
ストレージシステムの設定を変更する	30
ストレージシステムを削除する	32
REST APIをサポート	33
EMSデータ収集の管理	33
EMSデータ収集の停止	34
EMSデータ収集の開始	34
EMSデータ収集のスケジュールとターゲットSVMを変更	34
EMSデータ収集のステータスを監視する	34

SnapCenterサーバとプラグインの管理

ダッシュボードを表示

ダッシュボードの概要

SnapCenter の左側のナビゲーションペインで、ダッシュボードを使用すると、最近のジョブアクティビティ、アラート、保護の概要、ストレージの効率性と使用状況、SnapCenter ジョブのステータス（バックアップ、クローン、リストア）、スタンドアロンおよび Windows クラスタホストの構成ステータスなど、システムの健全性を一目で把握できます。SnapCenter で管理されている Storage Virtual Machine（SVM）の数とライセンス容量。

ダッシュボードビューに表示される情報は、SnapCenter に現在ログインしているユーザに割り当てられたロールによって異なります。ユーザにその情報を表示する権限がない場合、一部のコンテンツが表示されないことがあります。

多くの場合、*i* にカーソルを合わせると、ディスプレイに関する詳細情報を表示できます。状況によっては、リソース、モニタ、レポートなどの SnapCenter GUI ページの詳細なソース情報にダッシュボードの情報がリンクされていることがあります。

最近のジョブアクティビティ

[最近のジョブアクティビティ]タイルには、アクセス可能なバックアップ、リストア、クローンジョブの最新のジョブアクティビティが表示されます。この表示のジョブには、完了、警告、失敗、実行中、キューに登録済み、キャンセルされました。

ジョブにカーソルを合わせると、詳細が表示されます。ジョブ番号をクリックすると[監視]ページにリダイレクトされ、その他のジョブ情報を表示できます。そこからジョブの詳細またはログ情報を取得し、そのジョブに固有のレポートを生成できます。

すべての SnapCenter ジョブの履歴を表示するには、*すべて表示* をクリックします。

アラート

[アラート]タイルには、ホストおよびSnapCenterサーバに関する未解決の重大アラートと警告アラートの最新情報が表示されます。

重大アラートと警告アラートの総数が画面上部に表示されます。重大または警告の合計をクリックすると、[アラート]ページにリダイレクトされ、[アラート]ページで特定のフィルタが適用されます。

特定のアラートをクリックすると、そのアラートの詳細が表示される[アラート]ページにリダイレクトされます。ディスプレイの下部にある **[See All]**(すべてを表示) をクリックすると、[Alerts] ページにすべてのアラートのリストが表示されます。

最新の保護サマリ

[最新の保護サマリ]タイルには、アクセス可能なすべてのエンティティの保護ステータスが表示されます。デフォルトでは、すべてのプラグインのステータスが表示されます。ステータス情報は、Snapshotとしてプラ

イマリストレージにバックアップされたリソース、およびSnapMirrorテクノロジーとSnapVaultテクノロジーを使用してセカンダリストレージにバックアップされたリソースについて提供されます。セカンダリストレージの保護ステータス情報が表示されるかどうかは、選択したプラグインタイプによって決まります。



mirror-vault保護ポリシーを使用している場合は、保護概要のカウンタがSnapVaultの概要グラフに表示され、SnapMirrorのグラフには表示されません。

ドロップダウンメニューからプラグインを選択すると、個々のプラグインの保護ステータスを確認できます。ドーナツチャートには、選択したプラグインで保護されているリソースの割合が表示されます。ドーナツチャートのスライスをクリックすると、[レポート]>[プラグイン]*ページにリダイレクトされます。このページには、指定したプラグインのすべてのプライマリストレージとセカンダリストレージのアクティビティに関する詳細なレポートが表示されます。



セカンダリストレージに関するレポートはSnapVaultにのみ適用されます。SnapMirrorレポートはサポートされません。



SAP HANAは、Snapshotのプライマリストレージとセカンダリストレージの保護ステータス情報を提供します。ファイルベースのバックアップでは、プライマリストレージの保護ステータスのみを使用できます。

保護ステータス	プライマリストレージ	セカンダリストレージ
失敗	バックアップに失敗したリソースグループに属しているエンティティの数。	セカンダリデスティネーションへのバックアップの転送に失敗したエンティティの数。
成功	バックアップに成功したリソースグループに所属しているエンティティの数。	セカンダリデスティネーションへのバックアップの転送が完了したエンティティの数。
未設定	いずれのリソースグループにも属しておらず、バックアップされていないエンティティの数。	バックアップをセカンダリデスティネーションに転送するように設定されていないリソースグループに属しているエンティティの数。
未開始	リソースグループに属しているが、バックアップが実行されていないエンティティの数。	該当なし。



SnapCenter Server 4.2 以前のバージョンのプラグイン（4.2 より前）を使用してバックアップを作成している場合、最新の保護概要 * タイルには、これらのバックアップの SnapMirror 保護ステータスは表示されません。

ジョブ

[ジョブ]タイトルには、アクセス可能なバックアップ、リストア、およびクローニングジョブの概要が表示されます。ドロップダウンメニューを使用して、レポートの期間をカスタマイズできます。期間のオプションは、過去24時間、過去7日間、および過去30日間に固定されています。デフォルトのレポートには、過去7日間に実行されたデータ保護ジョブが表示されます。

バックアップ、リストア、およびクローニングジョブの情報がドーナツチャートに表示されます。ドーナツチャートのスライスをクリックすると[モニタ]ページにリダイレクトされ、選択したジョブにフィルタが適用されます。

ジョブステータス	説明
失敗	失敗したジョブ数。
警告	エラーが発生したジョブ数。
成功	正常に完了したジョブ数。
実行中	実行中のジョブ数。

ストレージ

[ストレージ]タイルには、90日間に保護ジョブで使用されたプライマリストレージとセカンダリストレージが表示されます。消費傾向とプライマリストレージの削減量が図で示されます。ストレージ情報は、24時間ごとに午前12時に更新されます。

この日の合計消費量は、SnapCenterで使用できるバックアップの合計数と、これらのバックアップが占有するサイズで構成され、画面の上部に表示されます。1つのバックアップに複数のSnapshotが関連付けられている場合、その数には同じSnapshotが含まれます。これは、プライマリSnapshotとセカンダリSnapshotの両方に該当します。たとえば、バックアップを10個作成し、そのうちの2個はポリシーベースのバックアップ保持に基づいて削除され、1個はユーザが明示的に削除したとします。したがって、バックアップ数が7個と、これら7個のバックアップが占有するサイズが表示されます。

プライマリストレージのストレージ削減率は、プライマリストレージの物理容量に対する論理容量（クローンとSnapshotによる削減量とストレージ消費量の合計）の比率です。棒グラフはストレージ削減量を示しています。

折れ線グラフには、過去90日間のプライマリストレージとセカンダリストレージの日単位の消費量が表示されます。グラフにカーソルを合わせると、1日ごとの詳細な結果が表示されます。



SnapCenter Server 4.2 以前のバージョンのプラグイン（4.2 より前）を使用してバックアップを作成する場合、「ストレージ」タイルには、バックアップ数、バックアップで消費されるストレージ容量、Snapshot の削減量、クローンの削減量、および Snapshot のサイズは表示されません。

構成

[設定]タイルには、SnapCenterで管理していてアクセス可能なすべてのアクティブなスタンドアロンホストとWindowsクラスタホストのステータス情報が統合されて表示されます。これには、ホストに関連付けられているプラグインのステータス情報も含まれます。

[Hosts]の横にある数字をクリックすると、[Hosts]ページの[Managed Hosts]セクションにリダイレクトされます。そこから、選択したホストの詳細情報を取得できます。

さらに、SnapCenterで管理しているスタンドアロンのONTAP ONTAPとクラスタSVMの合計と、アクセス権があることが表示されます。[SVM]の横にある数字をクリックすると、[ストレージシステム]ページにリ

ダイレクトされます。そこから、選択したSVMの詳細情報を取得できます。

ホストの構成状態は、赤（重大）、黄（警告）、緑（アクティブ）のほか、各状態のホスト数も表示されます。状態ごとにステータスメッセージが表示されます。

設定ステータス	説明
アップグレードが必要	サポートされていないプラグインを実行していてアップグレードが必要なホストの数。サポートされていないプラグインは、このバージョンのSnapCenterと互換性がありません。
移行が必要	実行しているプラグインがサポートされておらず、移行が必要なホストの数。サポートされていないプラグインは、このバージョンのSnapCenterと互換性がありません。
プラグインがインストールされていません	追加されたがプラグインのインストールが必要なホスト、またはプラグインのインストールに失敗したホストの数。
中断	スケジュールが中断されてメンテナンス中のホストの数。
停止	稼働しているがプラグインサービスが実行されていないホストの数。
ホスト停止	停止しているか到達できないホストの数。
アップグレード可能（オプション）	新しいバージョンのプラグインパッケージにアップグレード可能なホストの数。
移行可能（オプション）	新しいバージョンのプラグインを移行可能なホストの数。
ログディレクトリの設定	SCSQLでトランザクションログバックアップを作成するためにログディレクトリの設定が必要なホストの数。
VMware プラグインを設定	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを追加する必要があるホストの数。
不明	登録されているがインストールがまだ開始されていないホストの数。
実行中	稼働していてプラグインが実行されているホストの数。SCSQLプラグインの場合は、ログディレクトリとハイパーバイザーが設定されています。

設定ステータス	説明
プラグインをインストール中/アンインストール中	プラグインのインストールまたはアンインストールを実行中のホストの数。

ダッシュボードに情報を表示する方法

SnapCenter の左側のナビゲーションペインでは、ダッシュボードの各種タイルや、関連するシステムの詳細を表示できます。ダッシュボードで使用できる表示数は固定であり、変更することはできません。各画面に表示されるコンテンツは、Role-Based Access Control (RBAC ; ロールベースアクセス制御) によって異なります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*ダッシュボード* をクリックします。
2. 各ディスプレイのアクティブな領域をクリックすると、追加情報が表示されます。

たとえば、*ジョブ* でドーナツグラフをクリックすると、選択の詳細がモニタページに表示されます。[保護の概要]でドーナツグラフをクリックすると、[レポート]ページに移動します。このページには、選択に関する詳細情報が表示されます。

ダッシュボードからジョブのステータスレポートを要求する

[ダッシュボード]ページでは、バックアップ、リストア、およびクローニングジョブに関するレポートを表示できます。これは、SnapCenter 環境で成功または失敗したジョブの総数を確認する場合に便利です。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*ダッシュボード* をクリックします
2. ダッシュボードで [ジョブ] タイルを見つけ、[*バックアップ*]、[*リストア*]、または [*クローン*] を選択します。
3. プルダウンメニューを使用して、ジョブ情報を表示する期間 (24 時間、7 日間、または 30 日間) を選択します。

ドーナツチャートにデータが表示されます。

4. レポートを表示するジョブ情報に対応するドーナツチャートのスライスをクリックします。

ドーナツチャートをクリックすると、[Dashboard]ページから[Monitor]ページにリダイレクトされます。[モニタ]ページには、ドーナツグラフから選択したステータスのジョブが表示されます。

5. [Monitor]ページのリストで、特定のジョブをクリックして選択します。
6. [モニター]ページの上部で、[*レポート*] をクリックします。

• 結果 *

レポートには、選択したジョブの情報のみが表示されます。レポートは確認するか、ローカルシステムにダウンロードできます。

ダッシュボードから保護ステータスのレポートを要求する

ダッシュボードを使用して、特定のプラグインで管理されているリソースの保護の詳細を要求できます。データ保護の概要では、データバックアップのみが考慮されます。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*ダッシュボード*をクリックします。
2. ダッシュボードで[Latest Protection Summary]タイルを探し、プルダウンメニューを使用してプラグインを選択します。

ダッシュボードには、プライマリストレージにバックアップされたリソースのドーナツチャートが表示されます。プラグインの場合は、セカンダリストレージにバックアップされたリソースのドーナツチャートも表示されます。



データ保護レポートを使用できるのは、特定のタイプのプラグインのみです。すべてのプラグイン*を指定することはできません。

3. レポートを表示するステータスに対応するドーナツチャートのスライスをクリックします。

ドーナツチャートをクリックすると、[ダッシュボード]ページから[レポート]、[プラグイン]ページにリダイレクトされます。レポートには、選択したプラグインのステータスのみが表示されます。レポートは確認するか、ローカルシステムにダウンロードできます。



SnapMirrorドーナツチャートおよびファイルベースのSAP HANAバックアップの[レポート]ページにリダイレクトすることはできません。

RBACの管理

SnapCenterでは、ロール、ユーザ、およびグループを変更できます。

ロールを変更します。

SnapCenter ロールを変更して、ユーザまたはグループを削除したり、そのロールに関連付けられている権限を変更したりできます。ロール全体で使用されている権限を変更または削除する場合は、ロールを変更すると特に便利です。

開始する前に

「SnapCenterAdmin」ロールでログインする必要があります。



SnapCenterAdminロールの権限を変更または削除することはできません。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*設定*をクリックします。
2. 設定ページで、*役割*をクリックします。
3. [ロール名]フィールドで、変更するロールをクリックします。

4. このロールのすべてのメンバーは、他のメンバーのオブジェクトを表示できます * を選択すると、そのロールの他のメンバーは、リソースリストの更新後にボリュームやホストなどのリソースを参照できます。

このロールのメンバーに他のメンバーが割り当てられているオブジェクトが表示されないようにするには、このオプションの選択を解除します。



このオプションを有効にすると、オブジェクトまたはリソースを作成したユーザと同じロールに属するユーザにオブジェクトまたはリソースへのアクセス権を割り当てる必要はありません。

1. [ロールの詳細]ページで、必要に応じて権限を変更するか、メンバーの割り当てを解除します。
2. [Submit (送信)] をクリックします。

ユーザとグループの変更

SnapCenter のユーザまたはグループを変更して、ロールとアセットを変更できます。

開始する前に

SnapCenter 管理者としてログインする必要があります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定 * をクリックします。
2. [設定] ページで、[* ユーザーとアクセス *] をクリックします。
3. [ユーザ名またはグループ名] リストで、変更するユーザまたはグループをクリックします。
4. [ユーザまたはグループの詳細] ページで、ロールとアセットを変更します。
5. [Submit (送信)] をクリックします。

ホストの管理

ホストの追加、SnapCenter プラグインパッケージのインストール、検証サーバの追加、ホストの削除、バックアップジョブの移行、ホストの更新（プラグインパッケージのアップグレードや新しいプラグインパッケージの追加）を行うことができます。使用しているプラグインに応じて、ディスクのプロビジョニング、SMB共有の管理、イニシエータグループ (igroup) の管理、iSCSIセッションの管理、データの移行も実行できます。

実行できるタスク	Microsoft Exchange Server の場合	Microsoft SQL Server の場合	(Microsoft Windows の場合)	for Oracle Database の略	for SAP HANA Database の略	(NetApp でサポートされるプラグイン)	DB2の場合	PostgreSQL用PostgreSQLよう	MySQL用
ホストを追加してプラグインパッケージをインストールする	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ホストのESXi情報の更新	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
スケジュールの一時停止とホストのメンテナンスモードへの切り替え	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
プラグインの追加、アップグレード、または削除によるホストの変更	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
SnapCenterからのホストの削除	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
プラグインサービスの開始 (Windowsホストで実行されているプラグインにのみ該当)	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい

実行できるタスク	Microsoft Exchange Server の場合	Microsoft SQL Server の場合	(Microsoft Windows の場合)	for Oracle Database の略	for SAP HANA Database の略	(NetAppでサポートされるプラグイン)	DB2の場合	PostgreSQL用PostgreSQLよう	MySQL用
ディスクのプロビジョニング	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
SMB共有を管理します。	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
igroupを管理します。	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
iSCSIセッションを管理します。	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

仮想マシン情報の更新

VMware vCenterのクレデンシャルが変更されたとき、またはデータベースまたはファイルシステムのホストが再起動されたときに、仮想マシン情報を更新する必要があります。SnapCenterで仮想マシン情報を更新すると、VMware vSphere vCenterとの通信が開始され、vCenterのクレデンシャルが取得されます。



RDMベースのディスクは、データベースホストにインストールされているSnapCenter Plug-in for Microsoft Windowsで管理されます。SnapCenter Plug-in for Microsoft Windowsは、RDMを管理するために、データベースホストを管理するvCenterサーバと通信します。

• 手順 *

1. SnapCenter の左ナビゲーションペインで、 * Hosts * をクリックします。
2. [Hosts] ページで、 [*Managed Hosts] をクリックします。
3. [Managed Hosts]ページで、更新するホストを選択します。
4. [* VM の更新 *] をクリックします。

プラグインホストの変更

プラグインのインストール後、必要に応じてプラグインホストの詳細を変更できます。SnapCenter Plug-in for Microsoft SQL Serverのクレデンシャル、インストールパス、プラグイン、ログディレクトリの詳細、グループ管理サービスアカウント (gMSA) 、およびプラグインポートを変更できます。



プラグインのバージョンが SnapCenter サーバのバージョンと同じであることを確認します。

- このタスクについて *
- プラグインポートを変更できるのは、プラグインのインストール後だけです。

アップグレード処理の実行中はプラグインポートを変更できません。

- プラグインポートを変更する場合は、次のポートのロールバックシナリオに注意する必要があります。
 - スタンドアロンセットアップでは、SnapCenter がいずれかのコンポーネントのポート変更に失敗した場合、処理は失敗し、すべてのコンポーネントで古いポートが保持されます。

すべてのコンポーネントのポートが変更されたにもかかわらず、いずれかのコンポーネントが新しいポートで開始できない場合、すべてのコンポーネントで古いポートが保持されます。たとえば、スタンドアロンホスト上の2つのプラグインのポートを変更しようとして、SnapCenter がどちらかのプラグインに新しいポートを適用できなかった場合、処理は失敗し（該当するエラーメッセージが表示される）、両方のプラグインで古いポートが保持されます。

- クラスタセットアップでは、SnapCenter がいずれかのノードにインストールされているプラグインのポート変更に失敗した場合、処理は失敗し、すべてのノードで古いポートが保持されます。

たとえば、クラスタセットアップの4つのノードにプラグインがインストールされていて、いずれかのノードでポートが変更されていない場合、すべてのノードで古いポートが保持されます。

GMSA と一緒にプラグインをインストールした場合、* その他のオプション * ウィンドウで変更できません。gMSAなしでプラグインをインストールした場合は、gMSAアカウントを指定してプラグインサービスアカウントとして使用できます。

- 手順 *
- 1. 左側のナビゲーションペインで、* Hosts *（ホスト）をクリックします。
- 2. 上部で [Managed Hosts] が選択されていることを確認します。
- 3. 変更するホストを選択し、任意のフィールドを変更します。

一度に変更できるフィールドは1つだけです。

- 4. [Submit（送信）] をクリックします。

- 結果 *

ホストが検証され、SnapCenter サーバに追加されます。

プラグインサービスの起動と再起動

SnapCenterプラグインサービスを起動すると、サービスが実行されていない場合は開始し、実行中の場合は再開できます。メンテナンスの実行後にサービスの再起動が必要になる場合があります。

サービスの再起動時に実行中のジョブがないことを確認する必要があります。

- 手順 *
- 1. 左側のナビゲーションペインで、* Hosts *（ホスト）をクリックします。
- 2. [Hosts] ページで、[*Managed Hosts] をクリックします。

3. [Managed Hosts] ページで、開始するホストを選択します。
4. アイコンをクリックし  アイコン"]、[サービスの開始]*または[サービスの再開]*をクリックします。
複数のホストのサービスを同時に開始または再開できます。

ホストメンテナンスのスケジュールの一時停止

ホストで SnapCenter のスケジュールされたジョブの実行を停止するには、ホストをメンテナンスモードにします。この処理は、プラグインをアップグレードする前、またはホストでメンテナンスタスクを実行するときに行う必要があります。



SnapCenter がそのホストと通信できないため、停止しているホストではスケジュールを一時停止できません。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* Hosts * (ホスト) をクリックします。
2. [Hosts] ページで、[*Managed Hosts] をクリックします。
3. [Managed Hosts] ページで、サスペンドするホストを選択します。
4. アイコンをクリックし  アイコン"]、*[スケジュールの中断]*をクリックして、このプラグインのホストをメンテナンスモードにします。

複数のホストのスケジュールを同時に中断できます。



最初にプラグインサービスを停止する必要はありません。プラグインサービスの状態は「Running」または「Stopped」です。

• 結果 *

ホストでスケジュールを一時停止すると、ホストの [全般的なステータス] フィールドに [Managed Hosts] ページに [*suspended] と表示されます。

ホストのメンテナンスが完了したら、* スケジュールのアクティブ化 * をクリックして、ホストのメンテナンスモードを解除できます。複数のホストのスケジュールを同時にアクティブ化できます。

[Resources] ページでサポートされる処理

[リソース] ページでは、リソースを検出してデータ保護処理を実行できます。実行できる処理は、リソースの管理に使用しているプラグインによって異なります。

[Resources] ページでは、次のタスクを実行できます。

実行できるタスク	Microsoft Exchange Server の場合	Microsoft SQL Server の場合	(Microsoft Windows の場合)	for Oracle Database の略	for SAP HANA Database の略
リソースをバックアップに使用できるかどうかの確認	はい	はい	はい	はい	はい
リソースのオンデマンドバックアップの実行	はい	はい	はい	はい	はい
バックアップからのリストア	はい	はい	はい	はい	はい
バックアップのクローニング	いいえ	はい	はい	はい	はい
バックアップの管理	はい	はい	はい	はい	はい
クローンの管理	いいえ	はい	はい	はい	はい
ポリシーの管理	はい	はい	はい	はい	はい
ストレージ接続の管理	はい	はい	はい	はい	はい
バックアップのマウント	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
バックアップのアンマウント	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
詳細を表示	はい	はい	はい	はい	はい

ポリシーの管理

リソースまたはリソースグループからポリシーの適用解除、変更、削除、表示、コピーを行うことができます。

ポリシーの変更

リソースまたはリソースグループにポリシーが適用されている場合は、レプリケーションオプション、Snapshotの保持設定、エラーの再試行回数、またはスクリプトの情報を変更できます。スケジュールタ

タイプ（頻度）を変更するには、ポリシーを適用解除する必要があります。

• このタスクについて *

SnapCenter サーバでは、リソースまたはリソースグループにポリシーが適用されるときにのみスケジュールタイプが登録されるため、ポリシーのスケジュールタイプを変更するには追加の手順が必要です。

状況	作業
スケジュールタイプを追加する	<p>新しいポリシーを作成し、必要なリソースまたはリソースグループに適用します。</p> <p>たとえば、リソースグループポリシーで毎時バックアップのみが指定されている場合に、日次バックアップも追加するには、dailyスケジュールタイプのポリシーを作成してリソースグループに追加します。リソースグループには、hourlyとdailyの2つのポリシーが設定されます。</p>
スケジュールタイプを削除または変更する	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. そのポリシーを使用するすべてのリソースとリソースグループからポリシーの適用を解除します。2. スケジュールタイプを変更します。3. すべてのリソースとリソースグループにポリシーを再度適用します。 <p>たとえば、ポリシーで毎時バックアップが指定されている場合に、それを日次バックアップに変更するには、最初にポリシーの適用を解除する必要があります。</p>

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定 * をクリックします。
2. [設定] ページで、[* ポリシー *] をクリックします。
3. ポリシーを選択し、* 変更 * をクリックします。
4. 情報を変更して、[完了] をクリックします。

ポリシーの適用解除

リソースのデータ保護を管理するポリシーが不要になった場合は、リソースまたはリソースグループからいつでもポリシーの適用を解除できます。ポリシーを削除する前、またはスケジュールタイプを変更する前に、ポリシーの適用を解除する必要があります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。

2. [リソース] ページで、[* 表示] リストから [* リソースグループ*] を選択します。
3. リソースグループを選択し、* リソースグループの変更* をクリックします。
4. リソースグループの変更ウィザードのポリシーページで、ドロップダウンリストから、適用解除するポリシーの横にあるチェックマークをオフにします。
5. ウィザードの残りの部分でリソースグループに追加の変更を加えてから、[完了] をクリックします。

ポリシーの削除

不要になったポリシーは削除することができます。

開始する前に

ポリシーがリソースまたはリソースグループに関連付けられている場合は、ポリシーの適用を解除する必要があります。

- 手順*
 1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定* をクリックします。
 2. [設定] ページで、[* ポリシー*] をクリックします。
 3. ポリシーを選択し、* 削除* をクリックします。
 4. 「* はい*」 をクリックします。

リソースグループの管理

リソースグループに対してさまざまな処理を実行できます。

リソースグループに関連して次のタスクを実行できます。

- リソースグループを変更するには、リソースグループを選択し、* リソースグループの変更* をクリックして、リソースグループの作成時に指定した情報を編集します。



スケジュールはリソースグループの変更時に変更できます。ただし、スケジュールタイプを変更するには、ポリシーを変更する必要があります。



リソースグループからリソースを削除した場合、リソースグループに現在関連付けられているポリシーに定義されているバックアップ保持設定が、削除したリソースに引き続き適用されます。

- リソースグループのバックアップを作成する。
- バックアップのクローンを作成します。

クローニングは、SQL、Oracle、Windowsファイルシステム、カスタムアプリケーション、SAP HANAデータベースのリソースまたはリソースグループの既存のバックアップから実行できます。

- リソースグループのクローンを作成します。

この処理は、（データベースのみを含む）SQLリソースグループに対してのみサポートされます。リソースグループのクローニングのスケジュール（クローンライフサイクル）を設定できます。

- リソースグループに対してスケジュールされた処理が開始されないようにする。
- リソースグループを削除する。

リソースグループに対する処理の停止と再開

スケジュールされた処理がリソースグループで開始されないように一時的に無効にすることができます。これらの処理は、必要に応じてあとで有効にすることができます。

- 手順 *
 1. 左側のナビゲーションペインで、* リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
 2. [リソース] ページで、[* 表示] リストから [* リソースグループ *] を選択します。
 3. リソースグループを選択し、* Maintenance * (メンテナンス) をクリックします。
 4. [OK]* をクリックします。

保守モードにしたリソースグループの操作を再開する場合は 'リソースグループを選択して' 本番環境をクリックします

リソースグループの削除

リソースグループ内のリソースを保護する必要がなくなった場合は、リソースグループを削除できます。SnapCenter からプラグインを削除する前に、リソースグループを削除する必要があります。

- このタスクについて *

リソースグループ内のいずれかのリソースに対して作成されたすべてのクローンを手動で削除する必要があります。必要に応じて、リソースグループに関連付けられているすべてのバックアップ、メタデータ、ポリシー、およびSnapshotを強制的に削除することができます。

- 手順 *
 1. 左側のナビゲーションペインで、* リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
 2. [リソース] ページで、[* 表示] リストから [* リソースグループ *] を選択します。
 3. リソースグループを選択し、* 削除 * をクリックします。
 4. オプション：リソースグループに関連付けられているバックアップ、メタデータ、ポリシー、およびSnapshotをすべて削除する場合は、*[Delete backups and detach policies associated with this Resource Group]*チェックボックスを選択します。
 5. [OK]* をクリックします。

バックアップの管理

バックアップは、名前変更および削除することができます。複数のバックアップを同時に削除することもできます。

バックアップの名前変更

検索を簡単にするために、バックアップの名前を変更できます。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、[* 表示 *] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。リソースまたはリソースグループがデータ保護用に設定されていない場合は、トポロジページの代わりに Protect (保護) ウィザードが表示されます。

4. [コピーの管理] ビューで、プライマリ・ストレージ・システムから [* バックアップ] を選択します。

セカンダリストレージシステム上のバックアップは名前を変更できません。

Oracle Recovery Manager (RMAN) を使用して Oracle データベースのバックアップをカタログ化した場合、そのバックアップの名前は変更できません。

1. バックアップを選択し、 をクリックします。
2. [バックアップ名を * に変更] フィールドに新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

バックアップの削除

他のデータ保護処理に不要になったバックアップは削除できます。

開始する前に

バックアップを削除する前に、関連付けられているクローンを削除しておく必要があります。



クローンリソースに関連付けられているバックアップは削除できません。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、[* 表示 *] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。

4. [コピーの管理] ビューで、プライマリ・ストレージ・システムから [* バックアップ] を選択します。

セカンダリストレージシステム上のバックアップは削除できません。

5. バックアップを選択し、 をクリックします。

SAP HANAデータベースのバックアップを削除すると、関連付けられているSAP HANAカタログも削除されます。



最後に残っているバックアップが削除されると、関連付けられているHANAカタログのエントリを削除できません。

1. [OK]*をクリックします。



SnapCenterに古いデータベースバックアップがあり、ストレージシステム上の対応するバックアップがない場合は、remove-smbbackupコマンドを使用して、古いバックアップエントリをクリーンアップする必要があります。古いバックアップがカタログ化されている場合は、リカバリカタログデータベースからカタログ化が解除されます。

保護の解除

保護の解除：すべてのバックアップが削除され、すべてのポリシーが解除されます。保護を解除する前に、バックアップがマウントされておらず、バックアップにクローンが関連付けられていないことを確認する必要があります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*リソース* をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、[*表示*] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。

4. バックアップを選択し、*[保護の削除]* をクリックします。

クローンの削除

不要になったクローンは削除できます。

• このタスクについて *

他のクローンのソースと同様に機能するクローンは削除できません。

たとえば、本番環境のデータベースがdb1の場合、データベースclone1がdb1のバックアップからクローニングされ、以降clone1が保護されます。データベースClone2をClone1のバックアップからクローニングします。Clone1を削除する場合は、まずClone2を削除してからClone1を削除する必要があります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*リソース* をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。

2. [リソース] ページで、[* 表示 *] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。

4. [コピーの管理] ビューで 'プライマリまたはセカンダリ (ミラーまたはレプリケートされた) ストレージ・システムから [クローン *] を選択します
5. クローンを選択し、 をクリックします。

SAP HANA データベースのクローンを削除する場合は、[Delete Clone] ページで次の操作を実行します。

- a. 「* Pre-clone delete *」 フィールドに、クローンを削除する前に実行するコマンドを入力します。
 - b. Unmount * フィールドで、クローンを削除する前にクローンをアンマウントするコマンドを入力します。
6. [OK]* をクリックします。

• 終了後 *

ファイルシステムが削除されないことがあります。次のコマンドを実行して、clone_delete_delay パラメータの値を増やす必要があります。./sccli Set-SmConfigSettings



clone_delete_delay パラメータには、アプリケーションクローンの削除が完了してからファイルシステムの削除を開始するまでの待機時間を秒数で指定します。

パラメータの値を変更したら、SnapCenter Plug-in Loader (SPL) サービスを再起動します。

ジョブ、スケジュール、イベント、ログの監視

[監視] ページでは、ジョブの進捗状況の監視、スケジュールされたジョブに関する情報の取得、イベントやログの確認を行うことができます。

ジョブの監視

SnapCenter のバックアップ、クローニング、リストア、検証の各ジョブに関する情報を表示できます。このビューは、開始日と終了日、ジョブのタイプ、リソースグループ、ポリシー、または SnapCenter プラグインでフィルタできます。また、指定したジョブの詳細情報やログファイルを取得することもできます。

SnapMirror 処理と SnapVault 処理に関連するジョブを監視することもできます。



監視できるのは、SnapCenter 管理者または別のスーパーユーザーロールが割り当てられている場合を除き、自分が作成したジョブと自分に関連するジョブだけです。

ジョブの監視に関連して次のタスクを実行できます。

- バックアップ、クローニング、リストア、検証の各処理を監視する。

- ジョブの詳細とレポートを表示します。
- スケジュールされたジョブを停止する。

スケジュールされたバックアップジョブの管理

SnapCenter 6.0.1リリース以降では、新しいパラメータ* JobConcurrencyThreshold *が導入されました。このパラメータは、任意の時点で実行できるスケジュール済みジョブの数にしきい値を設定します。これにより、システムのハードウェア構成に基づいて実行するバックアップの数を制御できます。

JobConcurrencyThreshold *に割り当てられるデフォルト値は0で、無効になっています。スケジュール・バックアップ・ウィンドウ中にパフォーマンスの低下が見られた場合は'値を割り当てることによって有効にすることができます



同時ジョブを管理するために* JobConcurrencyThreshold *を有効にすると、SnapCenterではバックアップの順序を制御できず、スケジュールで指定した時刻にバックアップがトリガーされないことがあります。

手順

1. `_C:\Program Files\WebApp\Web.UI.dll.config_`にある`_JobConcurrencyThreshold_parameter`の値を設定しますNetApp SnapCenter SnapManager。
2. [IIS]、[アプリケーションプール]、[SnapCenter]、[再起動]の順にクリックして、SnapCenterアプリケーションプールをリサイクルします。
3. [IIS]、[サイト]、[SnapCenter]、[再起動]の順にクリックして、SnapCenter Webサービスを再起動します。

古いジョブの管理

古いジョブは、SnapCenterの中断または不適切なジョブの更新によって作成されます。SnapCenter 6.0.1リリース以降では、72時間以上停止している古いジョブをクリーンアップするための事前定義されたスケジュールが導入されています。スケジュール頻度を変更するには、設定可能なパラメータ* CleanUpStaleJobsIntervalHours *を編集します。

オンデマンドでクリーンアップをトリガーするには、* Monitor > Schedules > SnapCenter _ StaleJobCleanUp *からスケジュールを実行します。

手順

1. `_C:\Program NetApp SnapCenter WebApp\Web.UI.dll.config_`にある`_CleanUpStaleJobsIntervalHours_parameter`の値を設定しますSnapManager。
2. [IIS]、[アプリケーションプール]、[SnapCenter]、[再起動]の順にクリックして、SnapCenterアプリケーションプールをリサイクルします。
3. [IIS]、[サイト]、[SnapCenter]、[再起動]の順にクリックして、SnapCenter Webサービスを再起動します。

スケジュールの監視

現在のスケジュールを表示して、処理の開始日時、前回の実行日時、および次回の実行日時を確認できます。また、処理を実行するホスト、および処理のリソースグループとポリシーの情報を確認することもできます。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [モニター] ページで、 [* スケジュール *] をクリックします。
3. リソースグループとスケジュールタイプを選択します。
4. スケジュールされた処理のリストを表示します。

イベントを監視する

ユーザによるリソースグループの作成、システムによるアクティビティの開始、スケジュールされたバックアップの作成など、システム内の SnapCenter イベントのリストを表示できます。イベントを表示して、バックアップやリストアなどの処理が実行中かどうかを確認できます。

- このタスクについて *

[イベント] ページにすべてのジョブ情報が表示されます。たとえば 'バックアップ・ジョブが開始されると 'backup start' イベントが表示されますバックアップが完了すると ' backup complete イベントが表示されます

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [モニター] ページで、 [* イベント *] をクリックします。
3. (任意) [フィルタ] ボックスに、開始日または終了日、イベントのカテゴリ (バックアップ、リソースグループ、ポリシーなど)、および重大度レベルを入力し、 [適用 *] をクリックします。または、検索ボックスに文字を入力します。
4. イベントのリストを表示します。

ログの監視

SnapCenter サーバログ、SnapCenter ホストエージェントログ、およびプラグインログを表示およびダウンロードできます。ログを表示してトラブルシューティングに役立てることができます。

- このタスクについて *

フィルタを使用して、特定の重大度レベルのログだけを表示するように絞り込むことができます。

- デバッグ
- 情報
- 警告
- エラー
- 致命的

ジョブレベルのログ (バックアップジョブが失敗した理由のトラブルシューティングに役立つログなど) を取得することもできます。ジョブ・レベル・ログの場合は、 * Monitor * > * Jobs * オプションを使用します。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [Jobs] ページで、ジョブを選択し、 [Download logs] をクリックします。

ダウンロードしたzipフォルダには、ジョブログと共通のログが含まれています。zip形式のフォルダ名には、選択したジョブIDとジョブタイプが含まれています。

3. [モニター] ページで、[* ログ*] をクリックします。
4. ログタイプ、ホスト、およびインスタンスを選択します。

ログタイプとして* plugin を選択した場合は、ホストまたは**SnapCenter**プラグインを選択できます。ログタイプが server * の場合、この操作はできません。

5. 特定のソース、メッセージ、またはログレベルでログをフィルタリングするには、列見出しの上部にあるフィルタアイコンをクリックします。

すべてのログを表示するには、レベルとして*以上*を選択します Debug。

6. [* 更新*] をクリックします。
7. ログの一覧を確認します。
8. ログをダウンロードするには、* Download * をクリックします。

ダウンロードしたzipフォルダには、ジョブログと共通のログが含まれています。zip形式のフォルダ名には、選択したジョブIDとジョブタイプが含まれています。

大規模な構成でパフォーマンスを最適化するには、PowerShellコマンドレットを使用して、SnapCenterのログ設定を最小レベルに設定します。

```
Set-SmLogSettings -LogLevel All -MaxFileSize 10MB -MaxSizeRollBackups 10  
-JobLogsMaxFileSize 10MB -Server
```



フェイルオーバージョブの完了後に健全性や設定の情報にアクセスするには、コマンドレットを実行し `Get-SmRepositoryConfig` ます。

SnapCenterからのジョブとログの削除

バックアップ、リストア、クローニング、および検証の各ジョブとそのログを SnapCenter から削除できます。SnapCenter では、ジョブの成否にかかわらず、削除しないかぎりログは永久に保存されます。ジョブのログを削除することで、ストレージの空きを増やすことができます。

- このタスクについて *

実行中のジョブがないことを確認してください。ジョブIDを指定して特定のジョブを削除することも、指定した期間内にジョブを削除することもできます。

ジョブを削除するためにホストをメンテナンスモードにする必要はありません。

- 手順 *

1. PowerShellを起動します。
2. コマンドプロンプトで、次のように入力します。 `Open-SMConnection`
3. コマンドプロンプトで、次のように入力します。 `Remove-SmJobs`

4. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
5. [モニター] ページで、 [* ジョブ *] をクリックします。
6. [Jobs] ページで、ジョブのステータスを確認します。

関連情報

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、RUN_Get-Help コマンド *NAME* を実行して参照できます。または、を参照することもできます "[SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド](#)"。

SnapCenterのレポート機能の概要

SnapCenterには、システムの健全性と処理の成功を監視および管理するためのさまざまなレポートオプションが用意されています。

レポートタイプ	説明
バックアップレポート	バックアップレポートには、SnapCenter環境のバックアップ傾向に関する全体的なデータ、バックアップの成功率、および指定した期間に実行された各バックアップに関する情報が表示されます。バックアップが削除された場合、そのバックアップのステータス情報はレポートに表示されません。Backup Detail Report には、指定したバックアップジョブに関する詳細情報に加え、バックアップに成功したリソースと失敗したリソースの一覧が表示されます。
クローンレポート	Clone Report には、SnapCenter 環境のクローニング状況に関する全体的なデータ、クローニングの成功率、および指定した期間に実行された各クローニングジョブに関する情報が表示されます。クローンが削除された場合、そのクローンのステータス情報はレポートに表示されません。Clone Detail Report には、指定したクローン、クローニングホスト、クローニングジョブタスクのステータスに関する詳細情報が表示されます。タスクが失敗した場合は、Clone Detail Report にその情報が表示されます。
リストアレポート	Restore Report には、リストアジョブに関する全体的な情報が表示されます。Restore Detail Report には、指定したリストアジョブについて、ホスト名、バックアップ名、ジョブの開始日時と期間、個々のジョブタスクのステータスなどの詳細情報が表示されます。タスクが失敗した場合は、Restore Detail Report にその情報が表示されます。

レポートタイプ	説明
保護レポート	これらのレポートには、すべての SnapCenter プラグインインスタンスで管理されているリソースの保護の詳細が表示されます。このレポートには、すべてのプラグインインスタンスで管理されているリソースについて、保護の詳細が表示されます。概要のほか、保護されていないリソース、レポートの生成時にバックアップされていないリソース、バックアップ処理に失敗したリソースグループのリソース、および SnapVault のステータスを確認できます。
スケジュール済みレポート	<p>これらのレポートは、毎日、毎週、毎月のように定期的に実行されるようにスケジュールされています。レポートは指定された日時に自動的に生成され、電子メールで各ユーザーに送信されます。スケジュールは、有効化、無効化、変更、または削除できます。有効なスケジュールは、[今すぐ実行] ボタンをクリックして、オンデマンドで実行できます。管理者は任意のスケジュールを実行できますが、生成されるレポートには、スケジュールを作成したユーザーから提供された権限に基づいたデータが含まれます。</p> <p>Administrator 以外のユーザーは、権限に基づいてスケジュールを表示または変更できます。[ロールの追加] ページで [このロールのすべてのメンバーが他のメンバーのオブジェクトを表示できる] オプションが選択されている場合は、そのロールの他のメンバーが表示および変更できます。</p>

レポートへのアクセス

SnapCenter のダッシュボードを使用すると、システムヘルスの概要を簡単に確認できます。ダッシュボードでは、詳細をドリルダウンできます。または、詳細レポートに直接アクセスすることもできます。

次のいずれかの方法でレポートにアクセスできます。

- 左側のナビゲーションペインで、* ダッシュボード * をクリックし、* 前回の保護の概要 * 円グラフをクリックして、レポートページに詳細を表示します。
- 左側のナビゲーションペインで、* Reports * をクリックします。

レポートのフィルタ

必要な情報の詳細レベルと期間に応じて、パラメータの範囲に基づいてレポートデータをフィルタリングできます。

- 手順 *
 1. 左側のナビゲーションペインで、* Reports * をクリックします。
 2. パラメータービューが表示されていない場合は、レポートツールバーの * パラメーター領域の切り替

え * アイコンをクリックします。

3. レポートを実行する時間範囲を指定します。+ 終了日を省略すると、使用可能なすべての情報が取得されます。
4. 次のいずれかの条件に基づいてレポート情報をフィルタリングします。
 - リソースグループ
 - ホスト
 - ポリシー
 - リソース
 - ステータス
 - プラグイン名
5. [適用 (Apply)] をクリックします。

レポートのエクスポートまたは印刷

SnapCenter レポートをエクスポートすると、さまざまな形式でレポートを表示できます。レポートを印刷することもできます。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* Reports * をクリックします。
2. レポートツールバーから、次のいずれかを実行します。
 - プリント可能なレポートをプレビューするには、* プリントプレビューの切り替え * アイコンをクリックします。
 - レポートを別の形式にエクスポートするには、* Export * icon ドロップダウンリストから形式を選択します。
3. レポートを印刷するには、* 印刷 * アイコンをクリックします。
4. 特定のレポートサマリーを表示するには、レポートの該当するセクションまでスクロールします。

Eメール通知用のSMTPサーバの設定

データ保護ジョブのレポートを自分や他のユーザに送信する際に使用するSMTPサーバを指定できます。テスト用Eメールを送信して設定を確認することもできます。この設定は、Eメール通知を設定したすべてのSnapCenter ジョブにグローバルに適用されます。

このオプションは、すべてのデータ保護ジョブレポートを送信するためのSMTPサーバを設定します。ただし、特定のリソースに対する SnapCenter データ保護ジョブの更新情報を定期的に自分または他のユーザに送信し、更新ステータスを監視できるようするには、リソースグループの作成時に SnapCenter レポートを Eメールで送信するオプションを設定できます。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、* グローバル設定 * をクリックします。
3. SMTP サーバーを入力し、* 保存 * をクリックします。

4. テスト用 E メールを送信するには、Eメールの送信元と送信先の E メールアドレスを入力し、件名を入力して、「*送信*」をクリックします。

レポートをEメールで送信するオプションの設定

SnapCenter データ保護ジョブの更新情報を定期的に自分または他のユーザに送信し、更新ステータスを監視できるようにするには、リソースグループの作成時に SnapCenter レポートを E メールで送信するオプションを設定します。

開始する前に

[設定]の[グローバル設定]ページでSMTPサーバを設定しておく必要があります。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、*リソース*をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. 表示するリソースのタイプを選択し、*新規リソースグループ*をクリックするか、既存のリソースグループを選択して*変更*をクリックし、既存のリソースグループの E メールレポートを設定します。
3. 新しいリソースグループウィザードの通知パネルで、レポートを常に受信するか、エラーが発生したか、またはエラーや警告を受信するかをプルダウンメニューから選択します。
4. Eメールの送信元アドレス、Eメールの送信先アドレス、およびEメールの件名を入力します。

SnapCenterサーバリポジトリの管理

SnapCenter から実行される各種の処理に関する情報は、SnapCenter サーバのデータベースリポジトリに格納されます。SnapCenter サーバをデータ損失から保護するには、リポジトリのバックアップを作成する必要があります。

SnapCenter サーバリポジトリは、NSM データベースと呼ばれることもあります。

SnapCenter リポジトリを保護するための前提条件

SnapCenterリポジトリを保護するには、環境が一定の前提条件を満たしている必要があります。

• Storage Virtual Machine (SVM) 接続の管理

ストレージクレデンシャルを設定する必要があります。

• ホストのプロビジョニング

SnapCenter リポジトリのホストに、ネットアップストレージディスクが少なくとも 1 つ必要です。SnapCenter リポジトリのホストにネットアップディスクがない場合は作成する必要があります。

ホストの追加、SVM 接続のセットアップ、およびホストのプロビジョニングの詳細については、インストール手順を参照してください。

• iSCSI LUNまたはVMDKのプロビジョニング

ハイアベイラビリティ（HA）構成の場合は、いずれかのSnapCenter ServerでiSCSI LUNまたはVMDKのいずれかをプロビジョニングできます。

SnapCenterリポジトリのバックアップ

SnapCenter サーバリポジトリをバックアップしておくことで、データ損失からの保護に役立ちます。リポジトリは、`_Protect -SmRepository_cmdlet` を実行してバックアップできます。

- このタスクについて *

`_Protect -SmRepository_cmdlet` では、次のタスクを実行します。

- リソースグループとポリシーを作成
- SnapCenter リポジトリのバックアップスケジュールを作成します
- 手順 *
 1. PowerShellを起動します。
 2. SnapCenter サーバホストで、`_Open-SmConnection_cmdlet` を使用してセッションを確立し、クレデンシャルを入力します。
 3. `_Protect -SmRepository_cmdlet` と必要なパラメータを使用して、リポジトリをバックアップします。

SnapCenterリポジトリのバックアップの表示

SnapCenter サーバデータベースリポジトリのバックアップのリストを表示するには、`_Get-SmRepositoryBackups_cmdlet` を実行します。

リポジトリのバックアップは、`_Protect -SmRepository_cmdlet` で指定されたスケジュールに従って作成されます。

- 手順 *
 1. PowerShellを起動します。
 2. コマンドプロンプトで、次のコマンドレットを入力し、SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*
 3. `Get-SmRepositoryBackups_cmdlet` を使用して、使用可能な SnapCenter データベースのバックアップの一覧を表示します。

SnapCenterデータベースリポジトリのリストア

SnapCenter リポジトリをリストアするには、`_Restore-SmRepositoryBackup_cmdlet` を実行します。

SnapCenter リポジトリをリストアする場合は、リストア処理中にリポジトリデータベースにアクセスできないため、実行中の他の SnapCenter 処理に影響します。

- 手順 *
 1. PowerShellを起動します。
 2. コマンドプロンプトで、次のコマンドレットを入力し、SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*

3. `_Restore-SmRepositoryBackup_cmdlet` を使用して、リポジトリのバックアップをリストアします。

次のコマンドレットでは、iSCSI LUN または VMDK にあるバックアップから SnapCenter MySQL データベースリポジトリをリストアします。

```
C:\PS>Restore-SmRepositoryBackup -BackupName  
MySQL_DS_SC_Repository_mva-x3550-s09_09-15-2016_10.32.00.4445
```

バックアップファイルがiSCSI LUNから誤って削除された場合に、SnapCenterのMySQLデータベースをリストアするコマンドレットの例を次に示します。VMDKの場合は、ONTAPスナップショットからバックアップを手動でリストアします。

```
C:\PS>Restore-SmRepositoryBackup -BackupName MySQL_DS_SC_Repository_mva-  
x3550-s09_09-15-2016_10.32.00.4445 -RestoreFileSystem
```



リストア処理の実行後にリポジトリバックアップが取得されると、リポジトリのリストア処理に使用されたバックアップはリストに表示されません。

SnapCenterリポジトリを移行する

SnapCenter サーバのデータベースリポジトリをデフォルトの場所から別のディスクに移行することができます。リポジトリは、より多くのスペースがあるディスクに再配置する場合に移行できます。

• 手順 *

1. WindowsでMySQL57サービスを停止します。
2. MySQLのデータディレクトリを探します。

通常、データディレクトリはC:\ProgramData\MySQL\MySQL Server 5.7\Dataにあります。

3. MySQLデータディレクトリを新しい場所（E:\Data\nsmなど）にコピーします。
4. 新しいディレクトリを右クリックし、* プロパティ * > * セキュリティ * を選択して、ネットワークサービスローカルサーバーアカウントを新しいディレクトリに追加し、アカウントにフルコントロールを割り当てます。
5. 元のデータベースディレクトリ（nsm_copyなど）の名前を変更します。
6. Windows のコマンドプロンプトで、`_mklink_command` を使用してディレクトリのシンボリックリンクを作成します。

```
"mklink /d "C:\ProgramData\MySQL\MySQL Server 5.7\Data\nsm" "E:\Data\nsm" "
```

7. WindowsでMySQL57サービスを開始します。
8. SnapCenter にログインしてリポジトリのエントリを確認するか、MySQL ユーティリティにログインして新しいリポジトリに接続して、データベースの場所が正しく変更されたことを確認します。
9. 名前を変更した元のデータベースリポジトリディレクトリ（nsm_copy）を削除します。

SnapCenterリポジトリのパスワードをリセットする

MySQL Server リポジトリデータベースのパスワードは、SnapCenter 4.2 以降の SnapCenter Server のインストール時に自動的に生成されます。この自動生成されたパスワードは、SnapCenter ユーザにはいかなる時点でも知られていません。リポジトリデータベースにアクセスする場合は、パスワードをリセットする必要があります。

開始する前に

パスワードをリセットするには、SnapCenter 管理者の権限が必要です。

- 手順 *

1. PowerShellを起動します。
2. コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力し、SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*
3. リポジトリのパスワードをリセットします。 *Set-SmRepositoryPassword*

次のコマンドは、リポジトリパスワードをリセットします。

```
Set-SmRepositoryPassword at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
NewPassword: *****
ConfirmPassword: *****
Successfully updated the MySQL server password.
```

関連情報

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、`RUN_Get-Help コマンド NAME` を実行して参照できます。または、を参照することもできます "[SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド](#)"。

信頼されないドメインのリソースを管理します。

SnapCenter は、Active Directory (AD) の信頼できるドメイン内のホストの管理に加えて、複数の AD の信頼されていないドメイン内のホストも管理します。信頼されていない AD ドメインを SnapCenter サーバに登録する必要があります。SnapCenter では、複数の信頼されていない AD ドメインのユーザとグループがサポートされます

SnapCenter サーバは、ドメインまたはワークグループ内のマシンにインストールできます。SnapCenter サーバをインストールするには、マシンがドメイン内にある場合はドメインのクレデンシャル、ワークグループ内にある場合はローカルの管理者クレデンシャルを指定する必要があります。

SnapCenter サーバに登録されていないドメインに属する Active Directory (AD) グループはサポートされていません。これらの AD グループを使用して SnapCenter ロールを作成できますが、SnapCenter サーバへのログインが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。 The user are trying to login does not belong to any roles管理者にお問い合わせください。

信頼されていないドメインの変更

信頼されていないドメインを変更して、ドメインコントローラのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を更新できます。

- このタスクについて *

FQDNを変更すると、関連付けられているアセット (ホスト、ユーザ、およびグループ) が想定どおりに機能しないことがあります。

信頼されていないドメインを変更するには、SnapCenter ユーザインターフェイスまたは PowerShell コマンドレットを使用します。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、* グローバル設定 * をクリックします。
3. [グローバル設定] ページで、[* ドメイン設定 *] をクリックします。

4.  をクリックし、次の詳細を指定します。

フィールド	操作
ドメインFQDN	FQDN を指定し、* resolve * をクリックします。
ドメインコントローラのIPアドレス	ドメインのFQDNを解決できない場合は、ドメインコントローラのIPアドレスを1つ以上指定します。

5. [OK]*をクリックします。

信頼されていないActive Directoryドメインの登録解除

信頼されていないActive Directoryドメインに関連付けられているアセットを使用しない場合は、そのドメインの登録を解除できます。

開始する前に

信頼されていないドメインに関連付けられているホスト、ユーザ、グループ、およびクレデンシャルを削除しておく必要があります。

- このタスクについて *
- ドメインを SnapCenter サーバから登録解除すると、そのドメインのユーザは SnapCenter サーバにアクセスできなくなります。
- 関連付けられているアセット (ホスト、ユーザ、およびグループ) がある場合、ドメインの登録を解除すると、アセットは操作できなくなります。
- 信頼されていないドメインの登録を解除するには、SnapCenter ユーザインターフェイスまたは PowerShell コマンドレットを使用します。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、* グローバル設定 * をクリックします。
3. [グローバル設定] ページで、[* ドメイン設定 *] をクリックします。
4. ドメインのリストから、登録を解除するドメインを選択します。
5. をクリックし 、* OK * をクリックします。

ストレージシステムの管理

ストレージシステムを追加したら、ストレージシステムの構成や接続を変更したり、ストレージシステムを削除したりできます。

ストレージシステムの設定を変更する

ユーザ名、パスワード、プラットフォーム、ポート、プロトコルを変更する場合、SnapCenter を使用してストレージシステムの設定を変更できます。タイムアウト時間、優先 IP アドレス、またはメッセージングオプション。

• このタスクについて *

個々のユーザまたはグループのストレージ接続を変更できます。あるユーザが同じストレージシステムへの権限が付与された複数のグループに属している場合、ストレージ接続リストにはそのストレージ接続の名前が複数回（権限が割り当てられたグループごとに1回）表示されます。

• 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、* ストレージシステム * をクリックします。
2. Storage Systems (ストレージシステム) ページの * Type (タイプ) * ドロップダウンから、次のいずれかの操作を実行します。

選択するオプション	手順
ONTAP SVM	<p>追加されたすべての Storage Virtual Machine (SVM) を表示し、必要な SVM の設定を変更するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [Storage Connections] ページで、該当する SVM 名をクリックします。 b. 次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ SVM がどのクラスタにも含まれていない場合は、ストレージシステムの変更ページで、ユーザ名、パスワード、EMS および AutoSupport の設定、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、優先 IP アドレスを指定します。 ◦ SVM がクラスタの一部である場合は、ストレージシステムの変更ページで「SVM の個別管理」を選択し、ユーザ名、パスワード、EMS および AutoSupport の設定、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、優先 IP アドレスを指定します。 <p>SVM を個別に管理できるように変更した場合は、クラスタから SVM を削除し、*再検出* をクリックしてください。SVM が ONTAP クラスタに追加されます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> SnapCenter GUI でストレージシステムのパスワードが更新された場合、更新されたパスワードが SMCORE に反映されないために、該当するプラグインまたはサーバホストの SMCORE サービスを再起動する必要があります。この場合、バックアップジョブが誤ったクレデンシャルエラーで失敗します。</p> </div>

選択するオプション	手順
ONTAPクラスタ	<p>追加されたすべてのクラスタを表示し、必要なクラスタ設定を変更するには。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Storage Connections] ページで、クラスタ名をクリックします。 [ストレージシステムを変更] ページで、[ユーザ名] の横にある編集アイコンをクリックし、ユーザ名とパスワードを変更します。 EMS と AutoSupport の設定を選択または選択解除します。 [* その他のオプション *] をクリックして、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、優先 IP などの他の設定を変更します。

3. [Submit (送信)] をクリックします。

ストレージシステムを削除する

SnapCenter を使用して、使用していないストレージシステムを削除できます。

• このタスクについて *

個々のユーザまたはグループのストレージ接続を削除できます。あるユーザが同じストレージシステムへの権限が付与された複数のグループに属している場合、そのストレージシステムの名前がストレージ接続リストに複数回（権限が割り当てられたグループごとに1回）表示されます。



ストレージシステムを削除すると、そのストレージシステムで実行中の処理はすべて失敗します。

• 手順 *

- 左側のナビゲーションペインで、* ストレージシステム * をクリックします。
- ストレージシステムページの * タイプドロップダウンから、* ONTAP SVM * または * ONTAP クラスタ * のいずれかを選択します。
- [ストレージ接続] ページで、削除する SVM またはクラスタの横にあるチェックボックスを選択します。



クラスタに含まれる SVM は選択できません。

- [削除 (Delete)] をクリックします。
- Delete Storage System Connection Settings (ストレージシステム接続設定の削除) ページで、* OK * をクリックします。



ONTAP GUI を使用して ONTAP クラスタから SVM を削除した場合は、SnapCenter GUI で * Rediscover * をクリックして SVM リストを更新します。

REST APIをサポート

ONTAPへのすべてのASA、AFF、またはFASシステム接続は、デフォルトでZAPIを経由します。RESTAPIは、特定のONTAPバージョンで有効にできます。

SnapCenterは、ZAPIをサポートしていないASA r2システム上のすべての操作をREST APIを活用して実行します。

次の構成ファイルで構成キーを変更できます。

- IsRestEnabledForStorageConnection

デフォルト値は false です。

- MinOntapVersionToUseREST

デフォルト値は9.13.1です。

REST APIを使用した接続を有効にする

1. IsRestEnabledForStorageConnectionをtrueに設定します。
2. サーバとWindowsプラグインの両方のホストにSMCoreServiceHost.dll.configとSnapDriveService.dll.configのキーを追加します。

```
<add key="IsRestEnabledForStorageConnection" value="true" />
```

REST APIを使用した接続を特定のバージョンのONTAPに制限する

1. 設定パラメータMinOntapVersionToUseRESTをtrueに設定します。
2. サーバとWindowsプラグインの両方のホストにSMCoreServiceHost.dll.configとSnapDriveService.dll.configのキーを追加します。

```
<add key="MinOntapVersionToUseREST" value="9.13.1" />
```

3. サーバーでSmCoreのサービスを再起動し、プラグインマシンでプラグインとSnapDriveサービスを再起動します。

EMSデータ収集の管理

PowerShellコマンドレットを使用して、Event Management System (EMS ; イベント管理システム) によるデータ収集のスケジュール設定と管理を行うことができます。EMSデータ収集では、SnapCenterサーバ、インストールされているSnapCenterプラグインパッケージ、ホストに関する情報などが収集され、指定したONTAP Storage Virtual Machine (SVM) に送信されます。



データ収集タスクの実行中はシステムのCPU利用率が高くなります。CPU利用率は、データサイズに関係なく、処理の進行中は高いままです。

EMSデータ収集の停止

EMSデータ収集はデフォルトで有効になっており、インストール日から7日ごとに実行されます。データ収集は、PowerShell コマンドレットの `Disable -SmDataCollectionEMS` を使用していつでも無効にできます。

手順

1. PowerShell コマンドラインから「`Open-SmConnection`」と入力して、SnapCenter とのセッションを確立します。
2. `Disable-SmDataCollectionEms` と入力して、EMS データ収集を無効にします。

EMSデータ収集の開始

EMSデータ収集はデフォルトで有効になっており、インストール日から7日ごとに実行されるようにスケジュールされています。無効にした場合は、`_Enable-SmDataCollectionEMS_cmdlet` を使用して、EMS データ収集を再開できます。

NetApp ONTAP event generate-svm-log 権限が Storage Virtual Machine (AutoSupport) ユーザに付与されている。

手順

1. PowerShell コマンドラインから「`Open-SmConnection`」と入力して、SnapCenter とのセッションを確立します。
2. EMS データ収集を有効にするには、「`Enable -SmDataCollectionEMS`」と入力します。

EMSデータ収集のスケジュールとターゲットSVMを変更

PowerShellコマンドレットを使用して、EMSデータ収集のスケジュールやターゲットStorage Virtual Machine (SVM) を変更できます。

手順

1. PowerShell コマンドラインを使用して SnapCenter とのセッションを確立するには、`_Open-SmConnection_cmdlet` を入力します。
2. EMS データ収集のターゲットを変更するには、`_Set-SmDataCollectionEmsTarget_cmdlet` を入力します。
3. EMS データ収集のスケジュールを変更するには、`_Set-SmDataCollectionEmsSchedule_cmdlet` を入力します。

EMSデータ収集のステータスを監視する

いくつかのPowerShellコマンドレットを使用して、EMSデータ収集のステータスを監視できます。スケジュール、Storage Virtual Machine (SVM) ターゲット、およびステータスに関する情報を取得できます。

手順

1. PowerShell コマンドラインから「`Open-SmConnection`」と入力して、SnapCenter とのセッションを確立します。
2. `Get-SmDataCollectionEmsSchedule` と入力して、EMS データ収集スケジュールに関する情報を取得します。
3. `Get-SmDataCollectionEmsStatus` と入力して、EMS データ収集のステータスに関する情報を取得しま

す。

4. `Get-SmDataCollectionEmsTarget` と入力して、EMS データ収集ターゲットに関する情報を取得します。

関連情報

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、`RUN_Get-Help` コマンド `NAME` を実行して参照できます。または、[を参照することもできます "SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド"](#)。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。